

2025 年度特許フォーラム

「2025 年度特許フォーラム」を 11 月 28 日に御茶ノ水 WATERRAS COMMON HALL（東京都千代田区）にて開催した。特別講演で光産業における IP ランドスケープ®の具体的な活用事例、一般講演で古河電気工業（株）における知的財産活動の取組と特許庁による特許出願技術動向調査結果（ペロブスカイト太陽電池関連技術）、と計 3 件の講演を行い、約 70 名が来場した。

光協会の小谷副理事長兼専務理事の挨拶で開幕し、最初の講演は、特許庁 審査第一部 光デバイス 主任上席審査官 上田 泰氏による『令和 6 年度 特許出願技術動向 ―ペロブスカイト太陽電池関連技術―』と題する令和 6 年度の特許庁調査結果についての報告であった。日本発の次世代型で高効率・軽量・フレキシブルな特徴を持つため新市場開拓が期待されているペロブスカイト太陽電池に関する特許出願は、2015 年以降中国が急増する一方、日本は横ばいながら国際展開で優位を維持する状況を紹介した。また、日本の主要企業としてパナソニック、東芝、カネカなどが開発を進め、宮坂力氏（横浜桐蔭大）らが貢献しているが、論文発表は中国が全世界の約半数を占める。提言として、サプライチェーン確保、建物利用での先行、新市場開拓、大学連携、フレキシブル基板への注力が重要であるとした。

次に、古河電気工業株式会社 シニアフェロー 知的財産部長 大久保 典雄氏から『古河電工グループの知財・無形資産経営を支える知財活動』と題して令和 7 年度知財功労賞「経済産業大臣表彰」を受賞した古河電工グループの知財活動の紹介があった。取締役会による知財投資監督や情報開示を含むガバナンス体制を構築し、IP ランドスケープとオープン&クローズ戦略を推進している。さらに生成 AI を活用した特許調査や戦略策定の効率化により、持続的成長と新規事業創出に貢献する事例を報告した。

最後に、特別講演として IP ランドスケープ®の第一線で活躍されている（株）知財ランドスケープ CEO 山内 明氏による『光技術分野における IP ランドスケープ®の最新動向』の講演を行った。近年、特許情報を活用した技術戦略の重要性が高まる中、企業間競争構造や注目技術を俯瞰する分析事例を紹介した。自動運転向けセンサやメタバース向け XR 端末を題材に、ソニーや MAGIC LEAP など主要プレイヤーの特許動向を分析、技術潮流（プラットフォーム志向、UX 向上、AR グラス方式争いなど）を抽出し、光技術の応用可能性と企業戦略の方向性を明確化した。光技術の広範な応用可能性と知財戦略の役割を再認識できる内容であった。

光企業の知財部門の聴講者が多く、各講演後や休憩時間、懇親会において活発な質疑応答や議論が交わされ、IP ランドスケープ®への関心の高さ、企業経営における知財戦略の重要性を感じることができた。



特許庁 上田氏



古河電気工業 大久保氏



知財ランドスケープ 山内氏



会場風景



懇親会風景

※「IP ランドスケープ」は、弁理士法人正林国際特許商標事務所の登録商標です。